

第2学年 国語科指導案

日 時：令和元年 10月23日（水） 第5校時
場 所：清水小学校 2年生教室
授業者：安藤 実治

1 単元名：「音読劇をしよう／お手紙」

2 単元の目標

この単元に関わって、学習指導要領には、以下のように、述べられている。

C 読むこと

- (1) イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- (2) イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

3 研究内容に関わって

(1) 研究内容Ⅰ「つきたい力を明確にした単元指導計画の工夫」

子どもの出口の姿(評価)を明確にする授業づくり

単元を貫く課題を、「だれが、何をするのか、どんなことを言うのかに気をつけて読み、音読げきをしよう」と設定する。これを達成するために、以下のことが必要になると考えられる。

- ・登場人物の行動や発言に注目して物語を読むこと。
- ・登場人物の気持ちから、読み方や動き方の工夫を考えること。

そこで、単元の「きよみずガエル君」を

音読げきでどことなくふうができたケロッ？

と設定し、それを提示することで自らの学習に見通しをもって活動に取り組む。

※単元の「きよみずガエル君」とは、自己評価の視点を明確にし、児童一人一人が見通しをもって単位時間あたりの活動に取り組むために教師が提示するもの。

(2) 研究内容Ⅱ「豊かな表現力を身に付けるための学習過程の工夫」

児童が思考力・判断力・表現力の高まりを自覚するための教師の手立て

① 第3ブロック:まとめる

- ・お手紙が来るのを待っているがまくんとかえるくんの気持ちを、役割演技を通して考える。
- ・子どもの言葉でまとめができるよう話型を提示する。
- ・単元の第三次の活動である音読劇に繋げるために、二人の気持ちから工夫して音読する部分を考える。

② 第2ブロック:深める

- ・がまくんとかえるくんの気持ちをノートに書き、その根拠となる部分に線を引く。
- ・がまくんとかえるくんの気持ちが分かりやすいよう「うれしい」「しあわせ」などの気持ちカードを作り、板書に位置付ける。

③ 第1ブロック:つかむ

- ・前時までの場面を掲示やノートをもとに想起する。
- ・前時の登場人物の気持ちを意図的指名した児童のまとめから確認する。
- ・本時（第三場面後半）がかえるくんががまくんにお手紙を書いたことを打ち明け、二人でお手紙を待っている場面であることを確認し課題化する。

4 単元指導計画 第2学年 「音読げきをしよう/お手紙」 全11時間 A:知識及び技能 B:思考力, 判断力, 表現力等 C:学びに向かう力, 人間性等

単元	単元のきよみずガエル君 音読げきでどんなくふうができたケロ?				
次	1		2		
時	1	2	3	4	5
ねらい	物語を読むことを通して初発の感想をもち、「登場人物の行動や発言に気をつけて音読発表会をする」という学習に意欲をもつことができる。	時間や場所, 登場人物の行動などに注目して読み, お手紙を4つの場面に分けることができる。	手紙をもらえず悲しんでいるがまくんの気持ちを, がまくんの発言をもとにして読み取ることができる。	がまくんのためにお手紙を書くかえるくんの気持ちを, かえるくんの発言や行動をもとにして読み取ることができる。	お手紙が来ずに落ち込んでいるがまくんとそれを励ますかえるくんの気持ちを二人の会話をもとに読み取ることができる。
学習活動	1. 課題を設定する。 「お手紙」を読んで, 感想をもとう。 2. 「お手紙」の教師の範読を聞く。 3. 「お手紙」を音読し, 感想をもつ。 4. 感想を発表する。 5. 学習の見通しをもつ。	1. 登場人物を確認する。 「いつ」「どこで」や登場人物のしたこと注目してお手紙を場面分けしよう。 2. お手紙を音読する。 3. 「いつ」「どこで」や登場人物のことに線を引く。 4. お話を場面分けする。 分けた場面に題名をつけよう。 5. 場面ごとに小見出しをつける。	1. 第一場面に書かれている内容を確認する。 2. 課題を設定する。 手紙をもらえずに悲しんでいるがまくんやそれを聞いたかえるくんの気持ちを読み取ろう。 3. 第一場面を音読し一人読みをする。 4. 読み取った内容を全体交流する。 どうして二人とも悲しい気分になっているのだろう。 5. ペアで役割演技をする。 6. 本時のまとめをする。 ・がまくんはかなしい気持ちになっていました。わけは、毎日まっけていてもお手紙が来ないからです。 ・かえるくんはかなしい気持ちになっていました。わけは、ともだちのがまくんがかなしんでいるからです。	1. 第二場面について書かれている内容を確認する。 2. 課題を設定する。 急いで家に帰ったかえるくんの気持ちを読み取ろう。 3. 第二場面を音読し一人読みをする。 4. 読み取った内容を全体交流する。 かえるくんはどんな気持ちでお手紙を書いているのだろう。 5. ペアで役割演技をする。 6. 本時のまとめをする。 かえるくんは少しでも早くがまくんを喜ばせたいという気持ちだと思います。わけはおおいそぎでということばがあるからです。	1. 第三場面前半について書かれている内容を確認する。 2. 課題を設定する。 ベッドで寝ているがまくんと声をかけるかえるくんの気持ちを読み取ろう。 3. 第三場面を音読し一人読みをする。 4. 読み取った内容を全体交流する。 がまくんとかえるくんはそれぞれどんな気持ちで話をしているか演技をしてみよう。 5. ペアで役割演技をする。 6. 本時のまとめをする。 ・がまくんはいやな気持ちだと思います。わけは、お手紙が来ることをあきらめているからだと思います。 ・かえるくんは早くお手紙がきてほしい気持ちだと思います。
評価規準	「登場人物の行動や発言に気をつけて音読発表会をする」という学習を理解し, 意欲をもっている。また, 物語に興味をもって範読を聞き, 自分なりの感想をもっている。(発言・ノート)【C】	場面ごとの時間や場所, 登場人物の行動の変化に気付き, 場面分けをし, 場面ごとに小見出しをつけることができる。(発言・ノート)【B】	第一場面について, がまくんやかえるくんの気持ちを読み取っている。(発言・ノート)【B】	第二場面について, かえるくんの急ぐ気持ちや優しさを読み取っている。(発言・ノート)【B】	第三場面前半について, がまくんの投げやりな気持ちやかえるくんの懸命に励ます気持ちを読み取っている。(発言・ノート)【B】
並行読書	「がまくん」と「かえるくん」が登場するお話 「ふたりはいっしょ」 「ふたりはきょうも」 「ふたりはともだち」 「ふたりはいつも」				

次	2		3		
時	6 (本時)	7	8	9, 10	11, 12
ねらい	「とてもいいお手紙だ。」「とてもしあわせな気持ち。」という言葉に着目し、二人が幸せな気持ちでお手紙を待っている様子を読み取ることができる。	「長いこと待っていた。」「とてもよかったです。」という言葉に着目し、二人が待ちわびたお手紙が届いた喜びを読み取ることができる。	音読劇をするために、音読したい場面を決め、読み取ったことから読み方や動作の工夫を考えることができる。	班の話し合いや友達の助言を聞いて、音読のしかたを工夫し直し、練習を行うことができる。	これまでに読み取った内容を生かして、音読劇を発表することができる。また、友達の発表を聞いて、「読み方」と「動き」について感想を伝え合うことができる。
学習活動	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りをもとにこれまでの場面を想起する 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お手紙を待っている二人の気持ちを読み取ろう。</div> 第三場面後半を音読し一人読みをする。 読み取った内容を全体交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">玄関にすわってお手紙をまっている二人はどんなお話をしていたのだろう。</div> ペアで役割演技をする。 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・がまくんはしあわせな気持ちだと思います。わけは、待っていたお手紙が来ることとかえるくんのやさしい気持ちがあるからです。</div> 	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りをもとにこれまでの場面を想起する。第四場面に書かれている内容を確認する。 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">四日たってお手紙が届いた二人の気持ちを読みとろう。</div> 第四場面を音読し一人読みをする。 読みとった内容を全体交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どうしてお手紙が来るのが分かっていたのに四日も待っていたのだろう。</div> ペアで役割演技をする。 本時のまとめをする。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時まで、前時までの読み取りを活かして音読劇をすることを確認する。 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読み取ったことから音読の工夫や動きを考えよう。</div> グループに分かれて音読する場面を決め、工夫や動きを話し合う。 話し合ったことを書き込み台本を作る。 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 	<ol style="list-style-type: none"> 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">考えた工夫をもとに、音読発表会の練習をしよう。</div> グループに分かれて台本をもとに練習をする。 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 	<ol style="list-style-type: none"> 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音読発表会を開いて感想を伝え合おう。</div> 各グループで音読発表を行い、見つけた工夫をノートに書く。 感想を伝え合う。 単元を振り返り、本時のまとめをする。
評価規準	第三場面後半について、がまくんとかえるくんのやりとりから二人の気持ちを読み取っている。(発言・ノート)【B】	第四場面について、がまくんとかえるくんのお手紙が届いた喜びの気持ちを読み取っている。	読み取ったことを基に進んで音読の工夫を考えたり、話し合ったりしている。(発言)【C】	読み取ったことを基に音読劇の練習をしたり、さらに工夫できそうなことを考えたりしている。(発言)【C】	進んで音読劇をしたり友達の音読の良いところを探しながら聞いたりしている。(発言・ノート)【C】
並行読書	「がまくん」と「かえるくん」が登場するお話 「ふたりはいっしょ」 「ふたりはきょうも」 「ふたりはともだち」 「ふたりはいつも」				

5 本時の展開

本時のねらい「とてもいいお手紙だ。」「とてもしあわせな気持ち。」という言葉に着目し、二人が幸せな気持ちでお手紙を待っている様子を読み取ることができる。

本時の展開

①単元のきよみずガエル君 音読げきでどことなくふうができたケロッ?

第3ブロック

④振り返し(きよみずガエル君)

かえるくんのお手紙のところをやさしい声で読みたいです。
がまくんの「とてもいいお手紙だ。」の「う」を幸せそうに読みたいです。

③まとめ

がまくんは幸せな気持ちだと思います。わけは、待っていたお手紙が来ることかえるくんの優しい気持ちからうれしいからです。
かえるくんはうれしい気持ちだと思います。わけは、自分の書いたお手紙でがまくんが元気になってくれたからだと思います。

②深めの発問

二人はどんなお話をしながら玄関に座っていたのだろう。
「かえるくん、ありがと。とてもうれしいよ。」
「お手紙早く来ないかなあ。」
「がまくんが元気になってくれてうれしいよ。」

第2ブロック

⑥深める(読み取る)

(個の活動・一人読み→全体交流)

かえるくん

うれしい気持ちだと思います。わけは、がまくんが「とてもいいお手紙だ。」と言ってくれたからです。
「しあわせな気持ちだと思います。わけは、「しあわせな気持ちです」にすわっていました。」ということがあるからです。
がまくん
びつくりしていると思います。わけは、「きみが。」という言葉があるからです。
うれしい気持ちだと思います。わけは、「とてもいいお手紙だ。」という言葉があるからです。
「しあわせな気持ちだと思います。わけは、しあわせな気持ちでげんかんにすわっていて、お手紙が来るのを楽しみにしているからだと思います。」

⑤課題

お手紙をまっけている二人の気持ちを考えよう。

第1ブロック

⑦前時までの学習の振り返り

がまくんはお手紙が来ずに落ち込んでいます。
かえるくんはがまくんのために急いで家に帰りお手紙を書いた。
がまくんはお手紙が来ることをあきらめいやになっている。

⑧つかむ

お手紙が来ることをあきらめいやになったがまくんにかえるくんがお手紙を書いたことをうちあける。
かえるくんがお手紙を書いたことを知ったがまくんが元気になり二人ともしあわせな気持ちでお手紙をまっけている。

- お手紙が来るのを待っている二人の気持ちを役割演技を通して考える。
- 子どもの言葉でまとめができるよう話型を提示する。
- 単元の第三次の活動である音読劇に繋がられるように二人の気持ちから工夫して音読する部分を考える。

- がまくんとかえるくんの気持ちをノートに書き、その根拠となる部分に線を引く。
- がまくんとかえるくんの気持ちが分かりやすいよう「うれしい」「しあわせ」などの気持ちカードを作り、板書に位置付ける。

- 前時までの場面を掲示やノートをもとに想起する。
- 前時の登場人物の気持ちを意図的に指名した児童のまとめから確認する。
- 本時(第三場面後半)がどのような場面かを確認し課題化する。

並行読書 「がまくん」と「かえるくん」が登場するお話

「ふたりはいっしょ」 「ふたりはきょうも」 「ふたりはともだち」 「ふたりはいつも」